

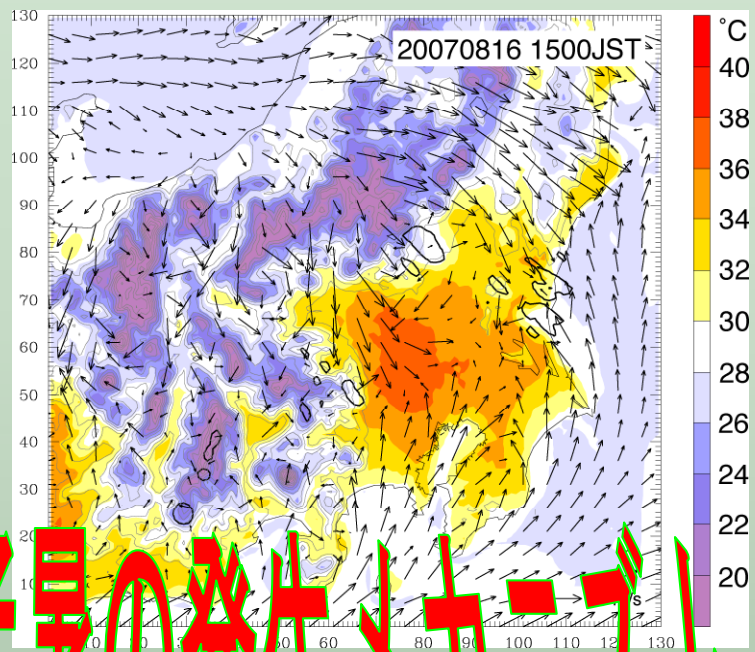
月日：平成25年3月30日(土)

時間：13:00～17:00

会場：立正大学熊谷キャンパス

会場教室 キャンパス内の案内掲示でご確認下さい
アクセス JR熊谷駅南口～国際十王バス～立正大学 270円

主催：立正大学地球環境科学部
環境システム学科
環境気象学分野



日本地理学会 公開シンポジウム

関東平野北西部猛暑の発生メカニズム

入場無料
先着優先

趣旨説明

中川清隆（立正大）：関東平野北西部猛暑研究の動向と本シンポジウムの目的

Part I 観測事実やデータ解析に基づく話題提供

重田祥範・渡来 靖・中川清隆（立正大）：関東平野北西部で発生する猛暑の形成機構解明を目指した広域気象観測網の構築

菅原広史（防衛大）：関東内陸における地表面熱収支

瀬戸芳一・高橋日出男（首都大）：関東平野の海風風系と北関東における高温との関係

西森基貴・石郷岡康史・桑形恒男・吉本真由美（農環研）：気候および農業気象要素の長期変化の観点から見た近年の暑夏について

Part II シミュレーション解析に基づく話題提供

高根雄也・日下博幸（筑波大）：関東平野内陸域で発生する猛暑とフェーン効果のメカニズム

渡来 靖・重田祥範・中川清隆（立正大）：関東平野北西部の猛暑における地峡風の影響

永戸久喜（気象庁）：気象庁現業数値予報モデルによる夏季の関東地方北西部の最高気温予測特性

Part III 総合討論

総括コメント

福岡義隆（立正大名誉教授）：本シンポジウムに提供された話題に関する諸問題

註) 2007年8月16日午後2時42分、熊谷において我が国観測史上最高気温40.9°Cが観測されました。上図はその直後の午後3時の風向風速(→)と気温(カラー)および降水(黒閉曲線)の分布を、立正大学環境気象学分野が、コンピュータシミュレーションにより求めたものです。